

延命地蔵

長寿を祈願したお堂

この地蔵堂は遅くとも 1725 年にはあったことがわかっており、その当時は、妊婦、旅人や子どもを守る小さな地蔵尊の像のみがありましたが、1813 年に旅人が妻籠の目抜き通りに並行して流れる蘭川の河川敷に足元から横になったような姿勢の地蔵尊の形をした変色部分のある珍しい岩を見つけました。この岩は、この地の和尚がこの場所に運んでくるよう手配し、石でできた蓮の葉の形の台座に安置され、2 階建ての厨子に祀られました。(当初の地蔵像は上段にありますが、見ることはできません。)

この小さな祠の左側にかけている大数珠にもご注目ください。「念仏を百万回唱える」ことを意味する、百万遍念仏講として知られる儀式では、数人の人々がこの大数珠を持ちながら繰り返し読経します。この祠の正面のいたるところに無造作に貼られた紙は、巡礼者が参拝したことを証明するために貼り付けた、各自の名前が書かれた千枚札というものです。

延命堂とは、「長寿のお堂」を意味し、人々は地蔵尊に長寿を祈願していました。